
東北大学陸上競技部

OB 通信

2012 年 No.2

(2012.6)

第 65 回東北学生陸上競技対校選手権大会

5 名が日本インカレ出場権獲得!!

男子走高跳で山田(2)が優勝

男子円盤投で柳澤(4)が優勝

男子やり投で杉本(M1)が優勝

女子 5000m で及川(4)が優勝

女子 10000m で鈴木(2)が優勝

他入賞者多数

～目次～

- ・ 立川シティマラソン 2 ページ
- ・ 東北学連春季競技会 2 ページ
- ・ 宮城県春季陸上競技大会 3 ページ
- ・ 平成 24 年度春季三秀総会 3 ページ
- ・ 第 65 回東北学生陸上競技対校選手権大会 4 ページ
- ・ 全日本大学駅伝・女子駅伝東北地区予選の抱負 14 ページ
- ・ 自己記録更新者一覧 15 ページ
- ・ 今後の予定 15 ページ
- ・ 編集後記 15 ページ

初夏の候、会員の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。いつも一方ならぬお力添えにあずかり、誠にありがとうございます。

今号では主に第65回東北学生陸上競技対校選手権大会の結果をお伝えします。

#立川シティマラソン (3/4) 於 立川

冬期練の総まとめとして長距離男子選手が立川で行われたハーフマラソンに参加しました。記録を紹介します。

・ハーフマラソン男子学生

氏名(学年)	順位	記録
藤澤 萌人(3)	394位	1"08'56"
石代 剛之(4)	426位	1"09'26"
菅野 均(4)	445位	1"09'50"
山本 悠平(3)	476位	1"10'46"
尾形 翔平(4)	484位	1"11'06"
植木 達矢(3)	526位	1"12'13"

田辺 明(3)	557位	1"13'03"
工藤 佑馬(M1)	585位	1"13'51"
西井 大樹(2)	641位	1"16'24"
深渡 慎一郎(3)	647位	1"16'45"
川口 亮平(D3)	662位	1"17'35"
宝田 拓馬(3)	694位	1"20'30"
近藤 一樹(4)	700位	1"21'30"
佐藤 奏介(2)	712位	1"24'06"

#東北学連春季競技会(4/7~8) 於 仙台市陸上競技場

シーズン初戦となる東北学連春季競技会が行われました。まだ調子の上がない選手が多く見られましたが、男子 100m、男子 5000m では自己ベストを出す選手も多く見られました。結果の一部を紹介します。

・男子 100m

組(風)	氏名(学年)	順位	記録
1組(+3.6)	伊藤 亮輔(4)	5着	11"08
2組(+0.8)	高林 佑輔(M1)	5着	11"39
	小林 大地(3)	7着	11"67
3組(+2.9)	畠山 真慈(4)	7着	11"36
4組(+0.1)	阿部 亨(2)	6着	11"58
5組(+0.9)	南 共哉(3)	2着	11"15
6組(+1.2)	鈴木 貴幸(M2)	3着	11"56
	向出 周太(3)	4着	11"57
8組(+1.5)	藤井 翼(4)	4着	11"64
9組(+3.3)	畑岡 進(2)	1着	11"56
10組(+4.9)	田附 遼太(4)	3着	11"70

・男子 5000m

氏名(学年)	順位	記録
深渡 慎一郎(3)	2着	15'21"61
石代 剛之(4)	5着	15'32"65
菅野 均(4)	7着	15'41"51
田辺 明(3)	13着	16'08"83
川口 亮平(D3)	15着	16'24"49
木村 慎太郎(4)	16着	16'29"99
工藤 佑馬(M1)	18着	16'47"30
醍醐 賢輔(3)	20着	17'19"55
宝田 拓馬(3)	22着	17'21"96

#宮城県春季陸上競技大会(4/21~22) 於 仙台市陸上競技場

仙台市陸上競技場において宮城県春季陸上競技大会が行われました。結果の一部を紹介します。

・男子 5000m 決勝

組	氏名(学年)	順位	記録
1組	植木 達矢(3)	13着	15'54"82
1組	山本 悠平(3)	24着	16'11"51

・男子 110mH 決勝

氏名(学年)	順位	記録
向出 周太(3)	5着	16"19

・女子 100mH 決勝

氏名(学年)	順位	記録
松田 麻季(3)	5着	15"90

・男子 4×100mR 決勝

氏名(学年)	順位	記録
阿部(2)-伊藤(4)-畠山(4)-南(3)	3着	42"81

・男子 4×400mR 決勝

氏名(学年)	順位	記録
高林(M1)-柴田(D1)-南(3)-伊藤(3)	3着	3'21"57

・男子棒高跳 決勝

氏名(学年)	順位	記録
佐藤 裕貴(3)	5位	3m90

・男子走幅跳 決勝

氏名(学年)	順位	記録
岡崎 和貴(3)	3位	6m97
鈴木 一輝(M1)	6位	6m71
安井 令(4)	7位	6m66

・男子ハンマー投 決勝

氏名(学年)	順位	記録
田附 遼太(4)	1位	30m40

・男子やり投 決勝

氏名(学年)	順位	記録
杉本 和志(M1)	2位	61m53

#平成 24 年度春季三秀総会(5/8) 於 片平桜ホール

5月8日、片平桜ホールで平成24年度春季三秀総会が行われました。

佐藤会長、彦坂副会長、宮崎幹事長、吉田監督から挨拶がありました。

平成24年度活動予定の報告の後、新入部員の紹介が行われ、出席して下さった先輩方より一言ずついただきました。

出席して下さった先輩方(敬省略)

宮崎鉄男 藤田文夫 佐藤源之 眞山隆徳 渡辺裕生 岩松正記 彦坂幸毅
久保正樹 吉田正人 小平圭一 川口亮平 岩崎辰哉 新沼啓 荒木佳那子
工藤佑馬 杉本和志 高林 佑輔

ご出席ありがとうございました。抜けている方がいらっしゃるかもしれませんがご容赦ください。

#第65回東北学生陸上競技対校選手権大会(5/18~20) 於 仙台市陸上競技場

男子総合4位。目標としていた3位には届きませんでした。全カレ出場を多くの選手が決め、今後の大会にも期待が高まります。結果を紹介します。

・トラック

男子 100m 予選

- 3-5 4着 伊藤 亮輔(4) 11"16(+2.3)
4-7 4着 鈴木 貴幸(M2) 11"37(+1.2)
5-6 4着 畠山 真慈(4) 11"31(+1.2)

伊藤はスタートで少し出遅れてしまった。その後は懸命に競り合い、4着で準決勝進出を決めた。

落ち着いたスタートをみせた鈴木は、持ち前の大きなストライドで前に食らいつく。しかし、惜しくも3着を確保できずに4着に終わった。

序盤から懸命に3着を目指す畠山。4着だったが、準決勝へ駒を進めた。

男子 100m 準決勝

- 1-2 5着 伊藤 亮輔(4) 11"13(+2.0)
3-2 7着 畠山 真慈(4) 11"09(+3.1)

伊藤は予選とは違い低姿勢からの良いスタート。中間疾走で周囲のスピードにやや遅れ、5着に終わった。

畠山はスタートから順調に加速し、上位に食らいつく。終盤にやや失速して離され、7着でレースを終えた。

女子 100m 予選

- 2-7 5着 中山 なつみ(3) 12"93(+1.0)

中山はスタートですぐに身体が起き上がったが、その後良い加速をみせ、徐々に前との差を詰める。5着に終わるも、見事12秒台をマークした。

男子 200m 予選

- 1-5 4着 伊藤 亮輔(4) 22"45(+1.1)
3-7 3着 畠山 真慈(4) 22"51(+4.2)
6-3 5着 小林 大地(3) 22"66(+5.4)

伊藤は勢いのあるスタート。コーナーでうまく加速し、直線では伸びのある走り。準決勝へ駒を進めた。

畠山のレースでは、一度フライングがあり仕切り直し。レースへの影響も心配されたが、前半から積極的な走りをみせる。直線でも大きなストライドを生かした走りで3着を確保した。

小林はスタートからとびだし、順調にコーナーをまわるも、その後がいまひとつ伸び切らない。5着になってしまったが、タイムで拾われ準決勝へ。

男子 200m 準決

- 1-2 4着 伊藤 亮輔(4) 22"73(-3.3)
2-7 3着 小林 大地(3) DNS
3-1 5着 畠山 真慈(4) 23"14(-0.9)

良い反応でとびだした伊藤は、速いピッチで順調にコーナーを加速。ストレートでも強い向かい風に負けずに走りを維持。3着でレースを終えた。

畠山はスタート直後に上体が起き上がり、うまく加速できない。コーナーを抜けた辺りからどんどん離されてしまい、7着に終わった。

2組目の小林は前日のレースで脚を

痛めてしまい、やむなく棄権した。

女子 200m 予選

2-3 3着 中山 なつみ(3)26"54(+1.8)

3-7 6着 千葉 愛里沙(2)28"10(+5.0)

中山は序盤コーナーをうまく使った走りで加速。直線に入ってからも良く伸び、3着でフィニッシュした。

千葉は100mHの直後のレースとなり、少し疲れがあるようにもみえた。前半から他の選手たちに離される形になってしまい、6着に終わった。

男子 400m 予選

1-7 3着 杉浦 弘樹(2) 50"35

3-4 2着 高林 佑輔(M1) 49"48

4-3 2着 南 共哉(3) 49"53

杉浦はスタートから積極的に前を狙う。バックストレート以降も落ち着いた走りで上位をキープし、3位の状態でラスト100mへ。ここでもよく粘ったが、3着で決勝を逃してしまった。

高林は終始1つ外側の福祉大の選手との先頭争いを繰り広げた。わずかに先行された状態で最後の直線へ。ここでも懸命な粘りをみせ、2着でフィニッシュ。決勝進出を決めた。

スタートから快調なイーブンペースでレースを進める南。ラスト100mからも走りを維持し、先頭との差を詰める。2着で決勝へ。

男子 400m 決勝

5位 高林 佑輔(M1) 49"01

7位 南 共哉(3) 49"13

高林は前半は自分のペースを保ち、

リラックスしたスムーズな走り。ラスト200mからギアが変わり、ラストもそのスピードは落ちることない素晴らしい走り。見事自己ベストで5位入賞した。

南は序盤から他の選手に離されたように思えたが、ラスト200mで圧巻のギアチェンジで前に食らいつく。最後の直線でも予選の疲れを感じさせない走りで自己ベストをマークした。

女子 400m 予選

1-2 5着 房内 まどか(4) 64"94

2-8 6着 下島 千歩(3) 63"32

房内はスタートから懸命に前についていこうとしたが、終始後方につける苦しいレースとなった。ラストも粘りきれず、5着に終わった。

下島は序盤から積極的に前を狙ったが、バックストレートから周りのスピードについていけない。後半も懸命に粘るも差は大きく、6着に終わった。

男子 800m 予選

3-5 3着 金子 修平(3) 2'00"94

4-5 2着 三上 和樹(3) 1'58"00

5-5 2着 大野 良輔(4) 1'58"15

金子はスタートから先頭に立ってレースを引っ張り、1周目を58秒で通過。500m過ぎに他大の選手が抜け出すも、これに金子がついていけない。ラスト100mでは粘りをみせたものの3着に終わり、悔しい結果となった。

三上はスタート直後から飛び出し、先頭で1周目を通過。500m過ぎに抜かれたが、懸命にぐらいつき、2着で

フィニッシュ。決勝に駒を進めた。

大野の組では先頭がハイペースでレースを進め、大野は集団後方で前半を走る。2周目から集団がばらけ始め、大野は徐々に前へ。トップに追いつかないまでも、2着で決勝をきめた。

男子 800m 決勝

7位 大野 良輔(4) 1'59"11

8位 三上 和樹(3) 1'59"84

序盤、大野は集団後方、三上は真中外側あたりにつける。集団全体が60秒で1周目を通過し、500m過ぎから一気にペースがあがる。これに大野、三上はついていけない。ラストの直線にさしかかった辺りで大野が三上をかわし、大野が7位、三上が8位でゴールした。

男子 1500m 予選

1組 10着 山根 由経(3) 4'14"49

2組 2着 三上 和樹(3) 4'06"86

5着 大野 良輔(4) 4'07"21

1組目に出場した山根はスタートで先頭に出て良い位置どりで1周目は68秒で通過。2周目もそのままのペースで走り、順調にレースを展開。しかし、ラスト300mペースをあげた集団についていけず、10着に終わった。

2組目には三上と大野が出場。三上は集団の真中あたり、大野は後方に位置取り。1周目を67秒ほどで通過した後、両者とも徐々に前に。ラスト1周でスパートをかけ、三上がラスト200m付近で先頭にたち、大野も良い位置につける。その後は両者余裕をも

って走り、三上が2位、大野が5位で決勝へ進出した。

男子 1500m 決勝

5位 三上 和樹(3) 4'03"72

11位 大野 良輔(4) 4'10"77

序盤、大野は真中あたり、三上は後方で走る。2周目まで展開は変わらず、ラスト1周からそれまで固まっていた集団が縦長になっていく。ここで大野はついていけずにおいていかれてしまう。残り250mで三上がスパートをかけるも、やはり序盤の位置取りが思わしくなかった。前との差は大きく、5位でフィニッシュ。大野は後半苦しいレースとなり、11位に終わった。

女子 1500m 決勝

3位 及川 まりや(4) 4'39"38

15位 石井 花織(3) 5'43"04

及川は先頭、石井は後方からのスタートとなった。そのままの展開でレースは進み、石井は一番後ろになってしまうが、徐々に前との差をつめていく。及川はラスト1周で1人に抜かれ、さらにラスト200mでもう1人に抜かれてしまう。その後は懸命な走りで若干差をつめるも惜しくも3位でフィニッシュ。石井はラストでペースの落ちた前の選手を抜き、15着でゴール。

男子 5000m 決勝

2組 4着 菅野 均(4) 15'24"89

7着 石代 剛之(4) 15'38"62

8着 深渡 慎一郎(3) 15'38"99

2組タイムレースで決勝が行われた。

東北大から3選手が出場した2組目では、全選手が塊になってのスタート。500m通過後、石代が前に出て2位につけ、3'00で1000m通過。1200mあたりから集団が3つに分かれ、石代、菅野が第1集団、深渡が第2集団でレースを展開。2000m通過後に石代が失速し始め、菅野と深渡は一定のペースを保った走りで前との差を縮める。3500~3600あたりで菅野らの集団が石代を抜かして前に出るも、その後はペースをあげられず、菅野が置いていかれてしまう。最後には懸命のスパートで4着でフィニッシュ。その後、ペースの落ちた石代に深渡が迫るが、わずかに届かず石代が7着、深渡が8着。全体では菅野が5位、石代が8位入賞を果たした。

女子 5000m 決勝

- 1位 及川 まりや(4) 17'11"93
- 8位 村松 純(宮城3) 18'25"91
- 13位 小高 真依(4) 19'50"00
- 18位 鈴木 はるか(4) 20'54"96

及川が先頭に立ち全体を引っ張る形でレースがスタート。村松はそれにやや遅れをとり、小高は第3集団で自分のペースでレースを展開。鈴木は大きく出遅れる。及川は3'19"で1000mを通過。1位争いを繰り広げる。小高は1600mで集団の前に。徐々に前との差を縮めていく。及川は2000mあたりから独走状態に。他の3選手は懸命に前を追う展開がつづく。最終的には及川は見事1着でゴール。村松、小高、鈴木の順でそれにつづいた。

男子 10000m 決勝

- 6位 石代 剛之(4) 32'01"36
- 7位 尾形 翔平(4) 32'11"21
- 10位 山本 悠平(3) 32'59"66

石代、尾形は先頭集団で走り、山本はそのやや後ろで自分のペースでレースを展開。石代は一時先頭に立つなど積極的な走りをみせるも、6000m弱で石代、尾形の両選手が先頭に離されてしまう。そのままずると差は広がるが、石代はラスト懸命に粘り6着でゴール。尾形がそれに続いた。山本は終始苦しいレースとなり、ラスト1周ですぐ後ろにつかれていた2人に抜かれ、10位でレースを終えた。

女子 10000m 決勝

- 1位 鈴木 絢子(2) 35'41"84

10000m 初レースとなった鈴木は、スタートから3番手につけ、余裕を感じさせる走り。そのままの展開で5000m手前にさしかかり、ここで先頭に出る。その後も相変わらず楽そうな走りで、8000mから一気にペースをあげ、独走状態に。スパートをかけたラスト1000mでは3'15ほどで走り、見事優勝した。

男子 110mH 予選

- 1-7 5着 向出 周太(3) 15"88(+2.3)
- 2-6 4着 岩崎 辰哉(M2)15"46(+1.1)
- 2-8 6着 工藤 知央(1) 15"95(+1.1)

フライングが一度あった影響か、向出はスタートで出遅れてしまう。その後は安定したハードリングをみせ、伸

びのあるフォームで走りきるも5着に終わった。

岩崎は勢いのある良いスタート。見事なハードリングと大きな走りで順調に加速していき、4着でフィニッシュ。決勝進出を決めた。

大学デビュー戦となった工藤は、終始きれいなハードリングで安定したレースを展開した。6着に終わったが、今後に期待できる。

男子 110mH 決勝

6位 岩崎 辰哉(M2) 15"25(+3.2)

素晴らしいスタートを切った岩崎は、その勢いで序盤かなりいい位置で走る。終盤は他の選手の伸びに離されたものの、6位入賞を果たした。

女子 100mH 予選

1-2 5着 千葉 愛里沙(2) 17"93(+4.2)

1-3 2着 松田 麻季(3) 15"46(+4.2)

2レーンの千葉はスタートで出遅れ、序盤から前を追う形となった。安定したハードリングをみせたものの、前との差は広がり、5着に終わった。

3レーンの松田はきれいなスタートから順調に初速をつけると、勢いそのままにきれいなハードリングでリズム良くハードルを超えていく。そのまま2着でフィニッシュ。

女子 100mH 決勝

5位 松田 麻季(3) 14"96(+3.9)

予選同様良いスタートをみせた松田は前半で飛び出す。その後もキレのあるハードリングをみせ、後半伸びて

くる他の選手達にくらいつき5位。

男子 400mH 予選

1-4 4着 千葉 優人(2) 56"35

2-3 4着 柴田 智弘(D1) 55"90

3-3 6着 工藤 知央(1) 58"19

千葉は勢いのあるスタートをみせ、200m付近までは順調なレース。しかし、その後は徐々にハードリングの乱れによる減速がみられた。結局4着に終わり、苦い結果となった。

柴田は終始自分のリズムを崩すことなく安定したレースを展開。後半も前との差を広げられることなく走りきり4着。決勝にはわずかに届かなかった。

工藤はきれいなハードリングを生かした無駄のない走り。そのペースは最後まで大きく落ちなかったが、前との差は大きく6着に終わった。

女子 400mH 予選

1-2 5着 下島 千歩(3) 70"74

2-6 2着 松田 麻季(3) 64"87

下島は序盤から後方で走る展開となったが、自らのペースで懸命に前を追う。ラストも粘るが、前との差は大きく、5着でフィニッシュした。

松田はきれいなハードリングで順調に上位を走る。ラストは先頭の選手と一定の差を保ちながら走り抜き、2位でゴール。

女子 400mH 決勝

4位 松田 麻季(3) 63"59

松田は前半から積極的なレース展

開。200m を通過後、なかなか前との差をつめることができないが、アウトレーンの選手たちと競り合うような形で最後の直線へ。必死にくらいつき、4位入賞を果たした。

男子 3000mSC 決勝

1組 4着 工藤 佑馬(M1) 10'38"45

2組 5着 深渡 慎一郎(3) 9'30"80

6着 尾形 翔平(4) 9'37"18

決勝タイムレースの3000m障害、1組目には工藤が出場。スタート後すぐに先頭にたち、1000mを3'19"で通過。2000m近くまでレースを引っ張るも、その後の1000mは苦しい走りになり、4着でフィニッシュ。

2組目には深渡、尾形の2名が出場。深渡はスタートから先頭を引っ張り、尾形は先頭集団後方でレースを展開。1000mを3'07"で通過した後、一人が抜け出し、2位集団でレースを進める。しかし、両者とも2000m付近で集団から離れてしまう。ラスト1周で深渡が一時2位集団に入るも苦しく、深渡、尾形がそれぞれ5位、6位でフィニッシュ。

男子 10000mW 決勝

5位 角川 拓也(3) 49'02"55

角川は後先頭集団後方あたりでレースをスタート。この後、徐々に話されていってしまい、さらに2400m付近で先頭2人がペースアップ。以降角川はだんだんとペースが落ちていくも、後続との差は広げて5位の位置をキープ。ラスト1000mは苦しい局面となるも、わずかに6位の選手に先行

して5位入賞を果たした。

男子 4×100mR 予選

2-3 4着 42"51

阿部(2)-伊藤(4)-畠山(4)-小林(3)

1走阿部は鋭い反応で飛び出し、離されることなくくらいついていく。ほぼ横一線の状態でバトンは2走へ。伊藤は他の選手にひけをとらない走りをするも、3走とのバトンパスがつまり気味に。3走畠山が懸命な走りで着実に前との差をつめていくが、次の3-4走間ではバトンが遠く、アンカー小林が一時後ろを振り返ってしまう。必死に前を追い、最後でわずかに前をかわして4着でフィニッシュ。

男子 4×100mR 決勝

5位 41"93

南(3)-伊藤(4)-畠山(4)-小林(3)

巧い内傾でコーナーを加速していく1走南。他のチームにまったくひけをとらずに勢いよくバトンは2走へ。思い切り良くでた2走伊藤は、速い回転の良い走り。他チームのエースと同等に駆け抜け、バトンは3走へ。畠山は大きな走りで勢いをつけ、4走へバトンパス。4走小林は予選同様わずかに振り向いてしまうものの、気迫の走りでゴールを目指す。2チームに追い抜かれてしまったものの、41秒台をマークして5位入賞を果たした。

女子 4×100mR 予選

1-5 3着 51"18

房内(4)-中山(3)-千葉(2)-下島(3)

良い反応をみせた房内だったが、他のチームに離され気味の走りになってしまった。2走はこの日12秒台をマークした中山。大きなストライドで前に離されることなくついていき、バトンは3走へ。3走千葉は良い加速をみせ、前との差をつめていく。4走下島は3位の位置でバトンを受けとり、确实のその位置をキープし、決勝へ駒を進めた。

女子 4×100mR 決勝

7位 51"02

房内(4)-中山(3)-千葉(2)-下島(3)

1走房内は落ち着いたスタートでうまく加速し、2走をうまく加速させるバトンパスでつなぐ。中山は周りの選手達に差をつけられそうになるも、必死にくりつき、バトンは3走へ。3走千葉も周りに離されながらも勢いのある走りでバトンをアンカーへつなぐ。この時点で前のチームとの差は大きかったが、4走下島は離されまいと懸命に走り、7位でゴールした。

男子 4×400mR 予選

2-5 1着 3'18"98

高林(M1)-千葉(2)-杉浦(2)-南(3)

1走高林はスタートからどんどん周囲を離すスピードで駆け抜けていく。大きく差をつけたトップでバトンは2走へ。リードをもらった2走千葉はリラックスした無駄のない走り。最終コーナーで追いつかれはするものの、最後までしっかりと走りバトンを3走へ。バトンを受け取った杉浦は、ホームス

トレートに入るところでもう先頭へ。後半もさらにその差を広げる走り。4走南は軽やかな走りで後ろとの距離をしっかりと保ち、ゴール手前では流す余裕をもって1着でフィニッシュ。

男子 4×400mR 決勝

2位 3'15"86

高林(M1)-千葉(2)-杉浦(2)-南(3)

1走高林は落ち着いたペースで1つ外側の福祉大の選手についていき、ラスト150m付近でギアチェンジ。最後までよく粘り、先頭と並ぶようにバトンパス。2走千葉は前半200mで前に離されるものの、その後は気合の入った走りで差を縮めていく。3走杉浦は前半落ち着いたペースでのレース展開。ラスト200mから良い走りをするも、前の選手もここからが速く、なかなか差はつまらない。しかし、勢いはそのままにバトンはアンカーへ。4走南はイーブンペースの走りで确实に2位の位置を保持。歴代4位の好記録で見事2位入賞を果たした。

女子 4×400mR 予選

1-5 4着 4'13"52

中山(3)-下島(3)-房内(4)-千葉(2)

1走中山はスタートで加速した後は、自分のペースを維持し、最後まで落ち着いた走り。5位でバトンパス。2走下島は序盤に良いテンポをつくると、そのペースを維持したまま最終コーナーまで周り、その後の直線では懸命な走り。3走房内は勢いよくコーナーを周り、200mを通過。その後も勢い

は衰えず、むしろスピードをあげるように前を目指す。4走千葉は前とも後ろとも大きく距離がある中であつたが、きちんと自分のペースをつくり、安定した走りで4着でフィニッシュ。見事部記録をマークした。

女子 4×400mR 決勝

7位 4'14"53

中山(3)-下島(3)-房内(4)-千葉(2)

中山は序盤から落ち着いたペースでレースを展開。しかし、後半は周りについていききれず、7番手でのバトンパス。2走下島は前との差を埋めるべく前半から積極的に攻める。最後までよく粘ったが、差は依然大きなままバトンは3走へ。3走房内も前に追いつこうとするも、ラストは粘りきれずおいていかれてしまう。4走千葉はバトンをうけとった時点でその差は大きく、競り合う相手のいない中でがんばったが追いつくにはいたらなかった。

・フィールド

男子走高跳 決勝

1位 山田 健太郎(2) 1m97

4位 岡部 大輝(2) 1m91

7位 奥 裕之(3) 1m88

山田は1m85からの出場。良いクリアランスで一発クリアし、次の1m88をパス。以降1m91、1m94ともに一発クリア。さらに自己ベストのかかった1m97、良い流れでこれも見事一度で成功。この時点で残った選手は3名で、バーの高さは2mへ。1回目は背中、2回目は背から腰にかけてひっか

けてしまった。3回目もいまいち勢いがでず、跳ぶことができなかつたが見事優勝を決めた。

岡部は1m85からのスタート。1m91まで、いまいち助走の流れがよくないものの勢いで一発クリア。つづく1m94は、1、2回目ともにほぼクリアしたようにみえたが、わずかに頂点がずれて失敗。3回目もうまくいかず、失敗したが4位となった。

奥は1m70からのスタート。1m80、1m85とともに一度ひっかけるも、2回目でクリア。つづく1m88の1回目、ふくらはぎを少しすっておとししてしまうも、良い流れ。2回目もかるくこすったがバーは落ちず、成功。見事自己ベスト。つづく1m91も失敗こそしたものの3回目に良い跳躍をみせた。

女子走高跳 決勝

6位 安倍 英理奈(2) 1m50

NM 星 まさみ(3)

安倍は1m40からのスタート。1m40、1m45ともにスムーズな助走からの綺麗な跳躍で一発クリア。つづく1m50も、軽く身体にひっかかったが一発で成功。1m55の1本目、スピードのある助走だが高さが足りない。2、3本目も同様の内容で失敗したが、6位入賞を果たした。

星も同じく1m40からの登場。2本目まで、身体は超えるも脚がひっかかる形になり失敗。つづく3本目、助走スピードはでていたのだが脚がバーを超えることはなく、悔しい結果に終わった。

男子棒高跳 決勝

4位 高橋 理寛(4) 4m30

6位 佐藤 裕貴(3) 4m00

高橋は4m20からの登場。ここは一発でクリア。4m30は一度失敗したが、うまく修正して2回目で成功。つづく4m40、1回目は助走が合わずに跳ぶことができなかった。2、3回目は踏み切ったがうまく身体がのらず、高さがでずに失敗。4位となった。

佐藤は3m70からの登場。ここは余裕をもって一発で成功。3m80では少し助走のリズムが崩れ、2回失敗してしまうが、3回目にはきちんとまとめて成功。3m90もバーにかすりはしたが2回目で越え、つづく4m00の1回目。助走のリズムがこれまでより速く、良い動きで、自己ベストで6位。つづく4m10も失敗こそしたものの、高さは十分ありクリアの改善次第で十分跳べる内容であった。

男子走幅跳 決勝

2位 岡崎 和貴(3) 7m14(+3.9)

9位 鈴木 一輝(M1) 6m91(+2.6)

DNS 安井 令(4)

岡崎は脚の調子が思わしくない状態での出場。1、2本目踏切が合わずファールになるも、3本目で7m10を記録しベスト8に残る。5本目はピッチアップが間に合わず脚の調子が心配されたが、6本目はうまく合わせ理想的な跳躍。見事2位入賞を果たした。

鈴木の本目はよくまとまった動きで、次につながる内容。2本目はさら

にスムーズな助走と踏切から、6m91をマーク。3本目は刻みすぎて減速してしまい、2本目の記録で惜しくも9位となった。

安井は脚の状態がよくなく、やむなく棄権。

女子走幅跳 決勝

12位 中山 なつみ(3) 4m91(+1.6)

15位 金子 奈緒(2) 4m75(+2.9)

16位 後藤 文子(1) 4m43(+1.3)

中山は助走スピードこそ良いものの、踏切が前になる跳躍が2度続く。3本目も、踏切板の手前になってしまうが助走スピード、跳び上がりともに素晴らしい跳躍。きちんと合わせられれば5mも到達したと思われる内容であった。

金子は1本目ファールの後の2本目、今度はピタリと踏切の合う跳躍。もう少し上方向へ跳べれば更に記録が期待できる。3本目は内容こそよかったものの、惜しくもファール。

大学デビュー戦となった後藤は2本目、バネのある跳躍。3本目にも記録は伸ばせなかったが、助走スピードがまだ戻っていないようなので、今後に期待したい。

男子三段跳 決勝

4位 大村 祐大(M2) 14m49(+3.4)

10位 岡崎 和貴(3) 13m82(+1.4)

NM 瀧澤 翔太(M2)

大村は1本目で崩れた助走を2本目で改善するも、ファール。つづく3本目で14m31をマーク、ベスト8へ。4、

5 本目ともにファールとなった次の 6 本目。合わせに行ったのか踏切直前の数歩で崩れたものの、14m49 をマーク。4 位となった。

岡崎の 1 本目はスピードが乗り切らずに潰れた跳躍。ここで脚を痛めてしまったらしく、この後は棄権した。

瀧澤は 1、2 本目ともに 5cm ほど脚が出てしまいファール。3 本目にのぞんだが、改善しきれずにまたもファールとなり、NM の悔しい結果となった。

男子砲丸投 決勝

5 位 柳澤 邦彦(4) 13m13

16 位 酒井 利晃(2) 8m89

17 位 山崎 大志(3) 8m59

柳澤は 1 投目、力でもっていく投擲で 13m13 の自己ベストをマーク。2、3 投目は少し力んだか記録を伸ばせなかったが、1 投目の記録でベスト 8 へ。その後は、相変わらず力強い投擲だったが勢いを上方向へ伝えられず、記録は伸びなかった。5 位入賞。

酒井の 1 投目は押し出しこそいいものの、高さが出ずに 8m89。その後は流れこそよかったものの、力強さに欠け、いまいち伸び切れずに終わった。

山崎は 1 投目、強く押せたが軌道が低く、8m59。2 投目はグライドで流れが作れず、3 投目には砲丸が抜けてしまった。結局記録は伸ばせず、悔しい結果となった。

男子円盤投 決勝

1 位 柳澤 邦彦(4) 46m49

8 位 石川 遼(2) 33m98

17 位 山崎 大志(3) 26m88

雨の中行われた男子円盤投決勝。柳澤は 1 投目、足を滑らせながらも持ちこたえて投擲。3 投目には気合の入った投擲で 43m66 を記録。ベスト 8 へ。4 投目、力強い投擲で見事 46m49 をマーク。全日本インカレの A 標準を超える素晴らしい記録である。結果この記録で優勝を果たした。

石川の 1 投目は、円盤の軌道が少しふらつくものの安定して飛んで行き、33m97 の自己ベストをマーク。この記録でベスト 8 を決める。その後は 5 投目まで円盤が左にそれつづけ、ファールとなる。6 投目はファールにこそならないものの、1 投目より落ちる記録。8 位入賞となった。

山崎は 1 投目で蹴りに力が入らず、2 投目はターンで浮いてしまう。3 投目は、少し力んでしまったか 2 投目よりも飛ばず、納得のいかない内容に終わってしまった。

男子ハンマー投 決勝

9 位 柳澤 邦彦(4) 36m91

11 位 八柳 暁(4) 34m63

12 位 田附 遼太(4) 32m86

柳澤は 3 投通して振り切りが良く、3 投目にはしっかりとしたターンからの振り切りとなったが、総じて弾道が非常に低く、9 位に終わった。

八柳は 2 投目、きれいなターンからの投擲となり、真ん中におちた。記録は 34m63 の自己ベスト。もう少し思い切りがあれば 35m は超えそうであ

ったが、3投目は記録が伸びず、11位となった。

田附の1投目は、1回転目で右に進んでしまうも、2回転目でしっかりとどし、最後は大きく振っての投げ。32m86で自己ベスト。2、3投目も1投目同様ずれてしまい、今度は修正できずにファール。12位となった。

男子やり投 決勝

1位 杉本 和志(M1) 60m92

4位 伊藤 泰彬(2) 58m75

10位 高橋 航(3) 53m76

杉本の1投目はリリースの瞬間が少しずれてしまい、2投目は助走に余裕を残してしまい伸びきれない。しかしつづく3投目、雄叫びと共に大きく

距離を伸ばす。その後の4投目でさらに鋭い投擲となり、ここで60m台にのせる。結果、この記録で見事優勝を果たした。

伊藤は1投目、向かい風に対して低く速い投げでうまく対応した。3投目には軌道が低めになってしまったが、58m75をマーク。その後はやりがそれてしまい、記録を伸ばすことはできなかったが3投目の記録で4位入賞。

高橋の1投目は風にあおられない力強い投擲。これが53m76で自己ベストとなる。その後は安定した投げをみせたがそれ以上は伸びきらずに終わった。

#全日本大学駅伝・女子駅伝東北地区予選の抱負

6月30日に全日本大学駅伝・女子駅伝の東北地区予選が角田で行われます。男子、女子ともに全日本大学駅伝への出場権を獲得するための重要な大会です。男子長距離PCからの抱負を紹介します。

長距離PCから抱負

藤澤 萌人(3)

昨年の予選会では、あと一步のところまで全日本大学駅伝への出場を逃しましたが、一人一人が1秒の大切さを再認識できたと思います。

今年は昨年の予選会に出場をした人が多く残っており、今シーズンに入ってベストを更新する人も多く、昨年よりも数段力を上げてきています。

昨年同様絶対的エースはいませんが、だからこそ選手一人一人が自分がエースだという気持ちを持って他大学の強い選手に食い下がってほしいと思います。チーム一丸となって今年こそ全日本大学駅伝へ出場したいと思います。応援よろしくお願いします。

#自己記録更新者一覧(4/7~5/20)

男子

- ・100m
南 共哉(3) 11"15 (学連春季)
- ・200m
伊藤 亮輔(3) 22"45
(東北インカレ)
- ・400m
高林 佑輔(M1) 49"01
(東北インカレ)
南 共哉(3) 49"13 (〃)
- ・5000m
植木 達矢(3) 15'54"82
(宮城春季)
宝田 拓馬(3) 17'21"96
(学連春季)
- ・走高跳
山田 健太郎(2) 1m97
(東北インカレ)
奥 裕之(3) 1m88 (〃)
- ・棒高跳
佐藤 裕貴(3) 4m00
(東北インカレ)

- ・砲丸投
柳澤 邦彦(4) 13m13
(東北インカレ)
- ・円盤投
柳澤 邦彦(4) 46m49
(東北インカレ)
- 石川 遼(1) 33m98 (〃)
- ・ハンマー投
八柳 暁(4) 34m63
(東北インカレ)
田附 遼太(4) 32m86 (〃)
- ・やり投
高橋 航(3) 53m76
(東北インカレ)

女子

- ・100m
中山 なつみ(3) 12"93
(東北インカレ)
- ・200m
中山 なつみ(3) 26"54
(東北インカレ)

#今後の予定

- 6月30日 秩父宮杯第44回全日本大学駅伝対校選手権大会東北地区予選会
兼 第30回全日本大学女子駅伝対校選手権大会東北地区予選会
角田市陸上競技場
- 7月7日 北大戦 仙台市陸上競技場

#編集後記

東北インカレが終わり、いよいよ全日・全女予選が近づいてきました。

5人もの選手が全カレ出場を決め、東北大学の強さを改めて感じました。今年も個性豊かな新入生がたくさん入部し、部全体も活気づいています。この勢いで予選会に向かっていきたいところです。応援よろしくお祈いします。

文責 副務 保坂 佑斗